

〈特集：平成 25 年度日本薬学図書館協議会研究集会〉

東海地区医学図書館協議会加盟館における
除籍（廃棄）の現状調査について

岡田 信恵*¹, 大野 圭子*², 榎原 佐知子*³, 田原 美奈子*⁴

[抄録] 資料の除籍に関する悩みは、どの図書館（室）でも抱えている。このような背景を踏まえ、今回、除籍の現状把握と問題点を探ることを目的として、東海地区医学図書館協議会に加盟している大学図書館や病院図書室に除籍のアンケート調査を実施する機会を得た。本稿では、そのアンケートの集計結果と今後の課題について報告する。

[キーワード] 除籍, アンケート調査, 大学図書館, 病院図書室, 東海地区

1. はじめに

平成 25 年度日本薬学図書館協議会研究集会が名古屋で開催されるにあたり、共催である東海地区医学図書館協議会（以下、協議会）から委嘱された 4 名が、協議会加盟館に除籍（廃棄）（以下、除籍）についてのアンケート調査を行い、その結果と協議会の取り組みの可能性を報告した。

協議会は、特定非営利活動法人日本医学図書館協会東海地区会の加盟館と一部の病院図書室が正会員となり、ほかに、病院図書室で構成される目録会員、医師会や歯科医師会などの賛助会員により組織されている。その事業には、年 1~2 回の研修会と東海目録がある。東海目録は、現在、近畿病院図書室協議会等と共同運用する Web 版雑誌目録「KITOcat」の一部として提供されており、東海地区の病院図書室と大学図書館の医学系総合雑誌目録である。これにより、病院図書室間

の ILL および大学と病院間の ILL が可能となり、東海地区ネットワークのシンボルとなっている。

2. 調査目的

近年、資料の除籍や廃棄について話題にあがるようになった。その背景として、資料の増加に伴う書架の狭隘化や、電子ジャーナル（以下、EJ）を始めとした電子資料が充実したこと、さらに大学図書館・病院図書室に求められる役割の変化が挙げられる¹⁻³⁾。そこで東海地区における除籍の現状把握をして、問題点や課題を明らかにするとともに、今後の協議会による取り組みの可能性を探ることとした。

3. 調査方法・回答

1) アンケート名

「東海地区医学図書館協議会
除籍（廃棄）現状調査」

*¹ Nobue OKADA, *² Keiko OHNO, *³ Sachiko SAKAKIBARA and *⁴ Minako TAHARA

*¹ 藤田学園医学・保健衛生学図書館 〒470-1192 豊明市沓掛町田楽ヶ窪 1-98

E-mail: noir0751465@yahoo.co.jp

*² 朝日大学図書館 〒501-0296 瑞穂市穂積 1851

E-mail: ohnokei@alice.asahi-u.ac.jp

*³ 愛知医科大学医学情報センター（図書館） 〒480-1195 長久手市岩作雁又 1 番地 1

E-mail: sachikos@aichi-med-u.ac.jp

*⁴ 名古屋市立大学総合情報センター川澄分館 〒467-8601 名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄 1

E-mail: tahara-minako@sec.nagoya-cu.ac.jp

表1 アンケート調査回答 (依頼数 84, 回答率 40%)

| 機関種別 | 大学 | 病院 | 合計 |
|----------|-----|-----|-----|
| アンケート依頼数 | 14 | 70 | 84 |
| 回答数 | 7 | 27 | 34 |
| 回答率 | 50% | 39% | 40% |

| 回答方法 | 回答数 |
|--------|-----|
| Web 回答 | 18 |
| メール添付 | 16 |
| 合計 | 34 |

2) 期間

2013年6月6日～27日

3) 依頼・回答方法

アンケートは、協議会事務局から会員用メーリングリストにアンケート用紙を添付し依頼してもらった。また、同じ内容の Web アンケートも用意して、メール添付もしくは Web 回答のどちらか都合のよい方法で回答できるようにした。

4) 回答数・回答率

回答数や回答方法などの詳細は、表1 (図表では、大学図書館を大学、病院図書室を病院と表記する) のとおり、アンケートの設問および集計結果 (自由記述は主なコメントを抜粋) は表2 (記事末尾掲載) のとおりである。

4. アンケート集計結果

4.1. 除籍の現状について

除籍を行っているかという質問について、大学図書館ではすべての回答館が図書も雑誌も除籍を行っている と答えた。病院図書室は、図書の除籍をしていないのは3室、雑誌は6室であったが、図書を除籍しない3室は雑誌も除籍しないと回答した。除籍を行わない理由は、書架にスペースがあることや、除籍するほど雑誌を所蔵していないという、現時点で差し迫った理由がないためであった。

成文化した除籍基準があるかという質問については、図1のとおりであった。

除籍の目的については、図2のとおり、書架スペースの確保が一番多く、その他、震災対策とし

て不要な図書は廃棄すべき、床荷重の適正化を図るなどが挙げられた。閲覧スペースの確保を目的とした館は7館 (室) あった。そのうち、書架を撤去し閲覧スペースとしたと回答した館が2館 (室) あった。

4.2. 除籍の対象

4.2.1. 冊子資料

図書が除籍対象となる理由のうち、旧版と出版年に、大学図書館と病院図書室の差が大きくなった (図3)。

大学は教育・研究機関であるため、古い資料も学術的価値があると考え、旧版を残すなど、古い出版年のものも所蔵する傾向があると考えられる。逆に、病院図書室は臨床現場へのサービスがより重視されるため、情報の新しさが重要であること、大学図書館より規模が小さい状況もあり、古いものは除籍して新しい資料を優先しているものと思われる。

また、雑誌も、除籍対象となる理由のうち、大学図書館と病院図書室の差が大きいの出版年であった (図4)。図書と同じく病院図書室は新しい資料を必要としているといえる。大学図書館は、浅見の報告⁴⁾にもあるように、あえて古い出版年のものを残す場合もある。大学図書館と病院図書室の役割の違いが、除籍対象となる資料の違いに表れている。

他館の所蔵状況を考慮して、除籍を判断するかという質問では、図書より雑誌のほうが、考慮するという結果が出ている (表2 I 6, II 6)。図書は名著、初出本以外のものは、他の図書で代替可能であること、国立国会図書館が所蔵していること、1冊ずつ所蔵調査することが困難であるという理由から他館の所蔵状況を考慮していないと推察できる。

4.2.2. 電子資料

電子資料の導入により冊子が除籍対象となる場合として、EJ (年間購読)、EJ (バックファイル)、CiNii、J-Stage、機関リポジトリ公開と続いた (図5)。また、図4に示した結果から、紛失や出版年と並び高い割合でEJ所蔵が除籍対象となっていることがわかった。冊子とEJは、媒体は違うが重複資料であり、冊子を除籍しても完全

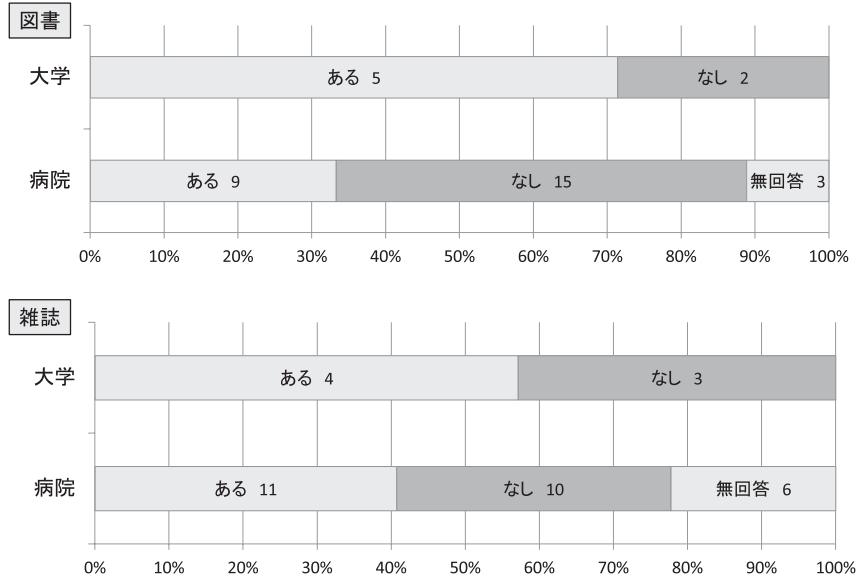


図1 除籍基準の有無

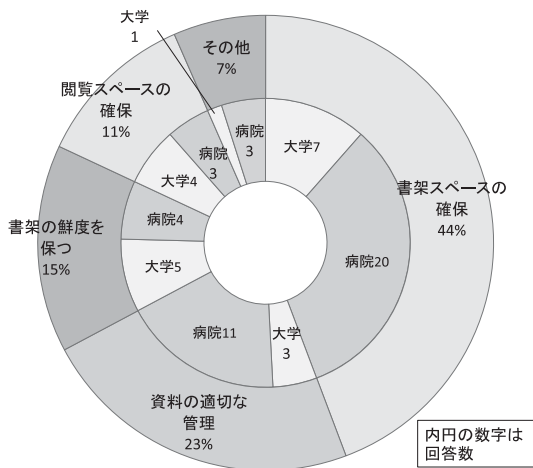


図2 除籍目的

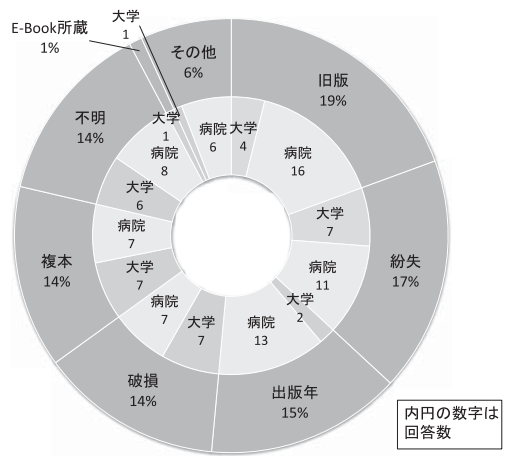


図3 除籍対象となる理由 (図書)

に利用ができなくなるわけではないため、除籍の優先順位が高くなっているといえる。ただ、後述するが、今回のアンケート調査から、この理由での除籍に不安感がある現状も明らかになった。

4.3. 除籍後の業務の変化

4.3.1. ILL への影響

雑誌の除籍後に ILL 複写依頼に変化があったかという質問では、大学図書館は全館、病院図書室は約 8 割が変化なしと答えている (表 2II8)。

この結果から、現時点では影響がない範囲で除籍していると推測できる。しかし、ILL で補えば解決するという認識ですべての図書館 (室) が除籍を進めることへの懸念は、他の回答項目でも示されている (表 2VII1)。

4.3.2. 電子資料導入の問題点

電子資料導入による冊子の除籍についての不安を自由記述欄で回答してもらった (表 2III4)。将来、電子ジャーナルの契約ができなくなった際の

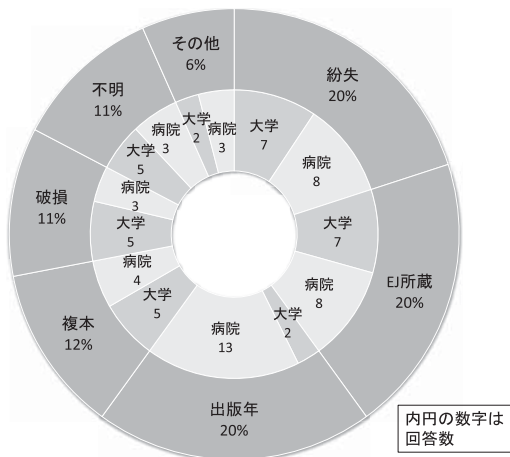


図4 除籍対象となる理由 (雑誌)

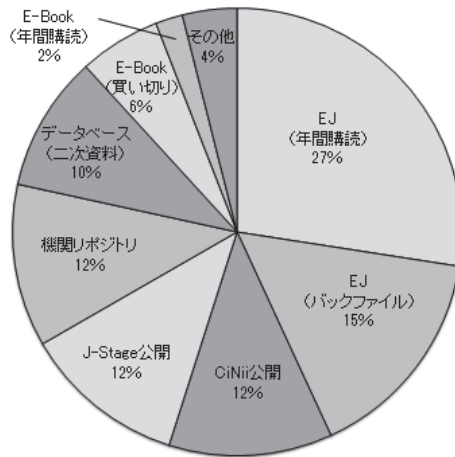


図5 除籍対象となる理由 (EJ 関連)

アーカイブ上の不安や、「今はアクセス権が保証されていても提供先の変更や出版社がなくなった場合は本当に永久的な心配であり、保存の面では危険であると考えている」というような、未来のアクセス権への不安が一番多く挙げられていた。そのほかは、「PC操作や電子資料の検索に慣れていない利用者がまだ存在するため利用者対応が必要である」「電子資料を目録に掲載しない・できない状況になると国内での所蔵調査が難しくなるのではないかなど」の不安を挙げている館(室)もあった。今後は電子資料がより一層重要視されると思われ、資料へのアクセスに不自由がないように、NACSIS-CAT等、目録の整備が必要だと思われる。

4.3.3. 利点と効果

「書架スペースの確保ができたので配架が容易になった」「新しい資料や必要な資料を目立たせ資料の鮮度を保ち、効果的な配架が可能になった」という回答が挙げられた(表2IV2)。書架スペースの確保以外では、「利用が少ない資料を除籍する場合は、次に購入する際の参考基準にできるため蔵書構成を見直す機会にもなる」「書架を取り除き、個人用学習ブースの増設やラーニングコモンズの設置というような、閲覧スペースを確保することで図書館サービス向上効果が見込まれる」というコメントもあった。

4.3.4. 不利益を感じた点

「旧版を除籍後に特定の旧版が見たいと要望があった」というような廃棄後に廃棄資料が必要になったというコメントが一番多く挙げられた(表2IV3)。「EJで閲覧できることを条件に除籍した雑誌の中で、EJに収録されていない号や未公開のページがあり、一部閲覧不可のものがあつた」もしくは、「EJには増刊が収録されていない場合が多く、除籍後に利用ができなくなってしまう」というような、EJが完全な冊子の代替資料にならないケースもあると示唆するコメントがあつた。この設問は自由記述であつたため、そのほか、「廃棄を好まない利用者の理解が得られない」、雑誌廃棄については、「文献複写依頼があるとスペースさえあればと思う」というような悩みや、仕方がなく除籍をしているというコメントもあつた。

5. 協議会に望む取り組み

東海地区としてできることを探るべく、資料の収集や保存について、今後協議会に望む取り組みを自由記述で回答してもらった(表2VI1)。

各機関の事情があり困難かもしれないという現状を踏まえてだが、国内から冊子の所蔵がなくなる事態を避けるため、分担保存を望む声が多く、「廃棄により生じるILL依頼先の減少等の解決策をネットワークで考えられるとよいと思う」「分

担保存とその利用について検討できるとよい」というコメントがあった。日本医学図書館協会中国・四国地区会では、学術雑誌バックナンバー分担保存協定を昭和63年から10年以上実施していた^{5,6)}。この例のように、いずれかの図書館が必ず所蔵しているという状況を作ることが理想である。また、個別で業者と交渉するよりも効率的で条件も良くなるため、協議会での雑誌共同購入（コンソーシアム）の交渉を望む病院図書室もあった。そのほかに病院図書室から、「成文化した除籍基準がなく戸惑いや悩みがあり他館はどうしているのか知りたい」「除籍基準を作成したため他館の除籍基準や方針などを知る機会を設けてほしい」という情報交換の場を望むコメントが多く挙がっていた。著者らは全員大学図書館員のため病院図書室の現状を測りきれないが、職員が1人しかいない図書室が多く、職場内で相談して解決することができない場合があると推察する。そのため、情報交換の場を求める声や雑誌共同購入の希望が出たのは納得できる。

さらに、「東海地区に限らず全国的に除籍が進む紙資料の有効的な保存・利用方法の確立が必要であり、館種や設置母体を超えた大規模な共同管理システムを早期に実現するべきだ」というコメントがあった。

協議会は、定例となっている研修会開催のほか、メーリングリストを活用して書誌・所蔵調査などのレファレンスを行っており、日常業務でも交流が盛んである。今回のアンケートで得た加盟館の希望を協議会に報告して、今後に繋げていけたらと思う。また、このアンケート調査結果が加盟館および関連図書館の参考となれば幸いである。

6. おわりに—アンケート結果から

今回のアンケート調査で、旧版や重複など従来の除籍理由に加え、電子資料の導入による冊子の除籍、書架以外の別用途のための除籍や災害対策のための除籍など、ひと昔前とは違う事情が明らかになった。特に電子資料が冊子資料の完全な代替になるかという不安を抱えながら除籍を行っている図書館（室）が多い現状を踏まえると、ス

ペース確保のための工夫が今以上に求められると考えられる。一方、スペース確保より電子資料の予算確保の交渉をするべきと回答する機関もあった。いずれにせよ、除籍に限らず図書館が存在価値を高めるための交渉・アピール力が、これからさらに必要になってくるであろう。また、除籍についての自由記述からは（表2VI2）、各館が資料保存を図書館の使命でもあり理想でもありと考えていることが伝わってくる。しかし、スペースには限りがあるため除籍せざるを得ない状況は今後も続く。図書館を取り巻く環境による除籍のあり方および収集方針の変化を踏まえ、われわれは、図書館の使命や存在意義、利用者への利便性を考えると、資料の除籍可否に関する適切な判断力を持たなくてはならない。

本稿は、平成25年8月8日に愛知学院大学楠元キャンパスにおいて開催された平成25年度日本薬学図書館協議会研究集会での発表を元に書き起こしたものである。

今回のアンケート調査は、協議会幹事の方々のご理解や協議会加盟館のご協力があり実現しました。誌面を借りて改めて感謝申し上げます。

引用・参考文献

- 1) 山室真知子ほか。病院図書館におけるサービス（情報提供）の専門性を探る—医学図書館・公共図書館・病院図書館の役割—。病院図書館。29(2), 2009, 51-54.
- 2) 文部科学省。“大学図書館の整備について（審議のまとめ）：変革する大学にあって求められる大学図書館像”。（オンライン），入手先〈http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/gijyutu/gijyutu4/toushin/1301602.htm〉，（参照2013-10-29）。
- 3) 日本病院ライブラリー協会。“目的・役割・活動内容”。（オンライン），入手先〈<http://jhla.org/about.php>〉，（参照2013-10-29）。
- 4) 浅見沙矢香。名古屋大学附属図書館医学部分館における外国雑誌の廃棄について。医学図書館。60(3), 2013, 313-317.
- 5) 日本医学図書館協会中国四国部会。中国四国地区におけるバックナンバーの分担保存制度。医学図書館。38(1), 1991, 17-21.
- 6) 橋田圭介。中国・四国地区会。医学図書館。60(1), 2013, 4-5.
- 7) 「医学図書館」編集委員会。「集書・除籍に関するJMLA加盟館アンケート」調査結果。医学図書館。59(4), 2012, 284-289.

（原稿受け：2013.11.14）

表2 アンケート集計表

| 機関種別 | | |
|--|---|---|
| 大学（国立） | 2 | 大学（公立） 1 大学（私立） 4 |
| 病院 | 27 | |
| 会員種別 | | |
| 正会員 | 9 | 目録会員 24 その他 1 |
| I 図書の除籍（廃棄）について | | |
| 1. 定期的に行っているか？ | | |
| 定期的 | 11 | 不定期 20 除籍しない 3 |
| 2. どのようなタイミング・頻度で行うか？（自由記述） | | |
| ・年1回…6 | ・年2回…2 | ・年1回…6 ・年2回…2 ・所有または関係部署から不要と判断されたら…5 ・資料の状態…1 ・長期間利用がないもの…1 |
| ・保管場所がなくなったら…5 | ・ある程度量がまとまったら…5 | ・一定の期間不明…5 ・新版がでたとき…2 |
| ・利用者から紛失届が出たとき…2 | ・運営委員会に諮って…2 | ・引越しのとき…2 |
| 3. 除籍（廃棄）の対象はどれか？（複数回答可） | | |
| 紛失 | 18 | 破損 14 複本 14 |
| 旧版 | 20 | |
| 不明（年数） | 14 | → 2年 3, 3年 8, 5年 1 特になし 1, 記載なし 1 |
| 出版年（年） | 15 | → 1970年以前 1, 1980年以前 1, 1990年以前 1 2000年以前 1, 20年前 3, 15年前 3 10年前 3, 8年前 1, 記載なし 2 |
| E-Bookを所蔵 | 1 | |
| その他 | ・所有・関係部署から不要と判断されたもの 3 ・講座から返納されたもの 1 ・図書委員会で判断・異議のないもの 1 | ・ケースバイケース 1 ・内容が古くて利用がないもの 1 |
| 4. 3の対象でも除外するものは？（自由記述） | | |
| ・関係の医師・教員の要望があるもの | 8 | ・普遍的なもの 4 |
| ・利用頻度の高いもの | 3 | ・学内外の所蔵状況を考慮 1 ・冊数がないもの 1 |
| ・教科書的・洋書・大系は除く | 1 | ・廃版となって類書がない 1 |
| ・古書でも価値があるもの | 1 | ・旧版でも学部に関係するものは除く場合あり 1 |
| ・今日の治療指針のように旧版でも1年位前であれば使えるものは希望部署に再配置する | 1 | |
| ・結核・原爆症は除く | 1 | |
| 5. 成文化した除籍（廃棄）基準があるか？ | | |
| はい | 14 | いいえ 17 |
| 6. 他館の所蔵状況により、除籍（廃棄）を判断するか？ | | |
| 考慮する | 7 | → 全国 6 東海地区 4 記載なし 1（複数回答可） |
| 考慮しない | 24 | |
| その他 | | |
| 7. 除籍した図書はどのように廃棄するか？（複数回答可） | | |
| 廃棄 | 31 | 他館へ照会・寄贈 4 古本業者へ照会 1 |
| 利用者へ供する | 16 | → 無料 15 有料 1 |
| その他 | 1 | * 図書館実施の本のリユース市で無料または有料で一般市民に提供 |

II 雑誌の除籍（廃棄）について

1. 定期的に行っているか？

定期的 11 不定期 17 除籍しない 6

2. どのようなタイミング・頻度で行うか？（自由記述）

- ・書架のスペースがない…10
- ・年に1回…6
- ・配架場所を変える時…2
- ・年に2回…1
- ・5年に1回…1
- ・年末…1
- ・ひっこし…1
- ・各科で保管年数を決めてもらっている…1
- ・EJ導入時…1
- ・重複誌がある程度たまったら…1
- ・運営委員会に諮る…1
- ・個人の寄贈でオンライン閲覧可のもの…1

3. 除籍（廃棄）の対象はどれか？（複数回答可）

紛失 15 破損 8 複本 9

EJ所蔵 15

不明（年数） 8 → 2年 2, 3年 5, 7年 1

出版年（年） 15 → 6年以前 1, 10年以前 6, 15年以前 2,
20年以前 1, 1993年以前 1, 2001年以前 1,
未記入 3

その他 5（大2病3）

- ・書庫に保管していたもの 1, 内容が古く利用がない 1
- ・特定誌は10年保管 1,
- ・購入中止後3年以上経過したもの 1
- ・刊後20年以上で他キャンパスにあるもの 1

4. 3の対象でも除外するものは？（自由記述）

- ・医師からの要望があるもの 5
- ・利用頻度を調べ考慮する 2
- ・保存が必要なコアジャーナル 2
- ・EJでアクセス権の残らないもの 1
- ・EJ所蔵でも分野により除く場合がある 1
- ・本学刊行物 2
- ・Pediatric関連 1
- ・所蔵館が極端に少ない 2
- ・書架スペース確保が可能なもの 1
- ・古い資料には史料的価値を考慮する 1

5. 成文化した除籍（廃棄）基準があるか？

はい 15 いいえ 13

6. 他館の所蔵状況により、除籍（廃棄）を判断するか？

考慮する 13 → 全国 9 東海地区 9（複数回答可）

考慮しない 14

その他 1 *赤十字分担保管制度あり

7. 除籍した図書はどのように廃棄するか？（複数回答可）

廃棄 28 他館へ照会・寄贈 5 古本業者へ照会 1

利用者へ供する 14 → 無料 14 有料 0

その他

8. 雑誌の除籍後、ILL複写依頼件数に変化があったか？

増えた 2 変化なし 24

その他 2 *コメントなし 1, 未検討・未調査 1

2. 除籍（廃棄）を行う利点や、効果を感じた点があるか？（自由記述）

- ・ 書架の整理整頓ができる。
- ・ 図書室が整理され 利用しやすくなった。
- ・ スペースが確保できた。
- ・ 書庫内の古い資料や複本資料の除籍により、書架スペースが確保され、開架書架に新しい資料が配架できるようになり利用しやすい環境となった。また書庫移動作業が軽減された。
- ・ 限られた蔵書スペースで資料の最新化を図るために、教員の協力を得て除籍候補資料の選択を行い、これに替わる図書資料予算も獲得し更新が実現した。同時に進めた学習環境の整備として、ラーニングコモンズを設置した。
- ・ 耐震対策
- ・ 病院の臨床に役立つ蔵書構成であるか考え直す機会となり結果として書架の鮮度が保たれる。利用の少なかったものを廃棄する場合は、次に購入する基準の参考となる。
- ・ 閲覧スペースの確保 ⇒ 個人用学習ブースの増設を予定しており、学生や教職員等への図書館サービス向上効果が見込まれる。
- ・ 資料の適切な管理 ⇒ 監査法人等から求められていることでもあり、また、定期的な除籍・廃棄等による蔵書管理は、図書館の役割を学内に示すことになる。

3. 除籍（廃棄）を行った後、不利益を感じた点があるか？（自由記述）

- ・ 廃棄後 文献資料が必要になった。
- ・ 廃棄を好まない利用者もおり、理解が得られない。
- ・ 普遍的な分野の資料の除籍は慎重にした方がよい。
- ・ 雑誌廃棄については、文献依頼があると『スペースさえあれば』と思う。
- ・ NII に電子ジャーナルを登録しないため、ILL の受付件数が減り、収入も減った。
- ・ 図書で旧版を除籍後、特定の旧版が見たいという要望を受けたことがある。
- ・ 雑誌でEJ に増刊が収録されていない場合が多く、除籍後利用できなくなってしまう。
- ・ EJ で閲覧できることを条件に除籍した雑誌の中で、欠号や未公開のページがあり、一部閲覧不可のものがあったこと。

4. やむを得ず除籍（廃棄）した事例があるか（理由も合わせて）？（自由記述）

- ・ 貸出図書が返却されず、回収不能で除籍したことがある。
- ・ 利用頻度が少ないという理由で、各大学で発行している紀要や雑誌・30～40年以前の臨床系雑誌、報告書等を除籍した。
- ・ 病院移転の際、あまりに古いものは新しい病院に持って行けないし、スペース棚もなかった。
- ・ 保存書庫（図書館とは別棟）を講座新設等の理由により移転を余儀なくされ、特に図書について移転先では大幅に保管スペースが減少したため、資料も大部分を除籍することとなった。
- ・ 床荷重の適正化を行うため、除籍（廃棄）した。
- ・ 当館では、書庫と本館の2か所で資料を保存していたが、書庫を転用したいとする学校法人の方針により、平成24年度に書庫保存分の大半を除籍した。当初、当館では、書庫保存資料の中に、まったく利用されない資料があることや業務の非効率（本館と書庫との間の移動距離が約500mあること。）の改善を図るため、必要な雑誌の電子版の購入と書庫分の除籍を実施し、本館での一括保存へと切り替える構想を4年計画で実施したいとの意向を示すとともに、電子版の購入経費を予算要求したが認められず、除籍のみ実施という形となった。

5. 4で除籍（廃棄）を行った際、感じたことは？（自由記述）

- ・主に複本の除籍だったため、利用者へのサービスの低下に繋がることへの不安はあまりなかったが、高価な書籍もあったため、大学全体の資産の減少となることへの不安があった。
- ・保存を目的とした図書館があれば、その存在意義は大きい。
- ・準備期間も十分でない中、大幅な除籍を行い、自責の念にかられた。また保管スペースが限られた中で、残すべき資料を選ぶうち、なるべく保存したいという資料は多いものの、「必ず残すべき」という判断になると曖昧となったため、保存基準をより明確にする必要性を感じた。保管スペースも学内でも貴重となるため、資料が必要であることの説明力と交渉術も必要となると思う。
- ・保存書庫も含めたスペースが充分にあれば、除籍（廃棄）しないで、多様な利用のために紙資料も利用できる方が良く、図書館員ならば多くの人が考えるのではないだろうか。
- ・利用者から除籍済の資料の所蔵を尋ねられたときには、不便を掛けてしまったとの思いがあった。しかし一方では、ILLで対応可能であることを考慮すれば、除籍して得られた利点の方が大きいと思う。

V I・IIで「除籍（廃棄）は行わない」と答えた館へ

1. 除籍（廃棄）を行わない理由や利点は？（自由記述）

- ・書架にスペースがあるため
- ・（雑誌）除籍など調査をしても、利用者が必要という声が多い為、廃棄等を行わない。
- ・雑誌の除籍（廃棄）を行わない理由は、雑誌は除籍をするほど所蔵していないためです。利用者から古い雑誌を読みたいという要望があった際に資料を提供できることが利点だと思います。

2. 除籍（廃棄）を行わないことで、不利益があったか？（自由記述）

- ・配架場所の変更や移動が大変である。また、蔵書確認に時間がかかる。

3. I・IIとも「除籍（廃棄）は行わない」と回答した館は、今後除籍（廃棄）する予定は？

ある 1 * H26 年度新病院移転に伴い、図書・雑誌を除籍予定

ない 0

予定はないが行いたい（理由） 2 * 破損・紛失資料は利用ができないため 1
* 書架スペースがなくなってきたため 1

VI 全ての館へ

1. 資料の収集や保存について、今後東海地区の取り組みに望むことは？（自由記述）

- ・資料収集のための文献代が利用者には負担なため保存資料が共有でき負担が少なくなる取り組みを望みます。
- ・重複雑誌のように除籍（廃棄）のデータ交換をしていただけるとありがたいです。
- ・当院には明確な選書基準がなく蔵書構築に頭を悩ませているが、研修会やMLを活用し情報交換できるように、今後も場の提供を望みたい。
- ・東海地区医学図書館協議会での雑誌協同購入の交渉はしてもらえないだろうか？各館が個別に業者と交渉するよりも効率的で、条件面も良くなるのではないのでしょうか？但し、条件面で合致しない館は当然出てくると思うので、可能かどうか？です。
- ・マイナー学会誌・電子媒体を含めた外国雑誌の提供情報のアップ
- ・現在は廃棄基準がないため、廃棄基準を作成して順次除籍していくべきだと思います。他館の具体的な廃棄基準、方針等を知る機会を設けて頂けると嬉しいです。
- ・分担保存とその利用について検討できるとよい。他が除籍しても、必ず所蔵している館がある状況が作れると良いと思う。
- ・学術的価値は高いが、利用頻度の少ない資料を保存しているため、利用者、あるいは新しい資料のためのスペースの確保が難しくなっている、というのが多くの図書館の共通課題と考えられる。そのため除籍（廃棄）せざるを得ない状況だが、東海地区に限らず、全国的に除籍（廃棄）が進む紙資料の有効な保存・利用方法の確立が必要である。個々の図書館単位では対応困難であるため、館種、設立母体を超えた大規模な共

同管理システムを早期に実現すべきと考える。

- ・電子資料も紙の資料も収集、保存していくスタイルが望ましいと思います。
- ・東海地区に限ったことではないが、「ILLで補えばよい」との考えから、全国にある図書館が資料の除籍を実施し、その結果、我が国のすべての図書館から資料がなくなってしまうという事態に陥らないようにしたい。
- ・最近ではコピーよりもPDFで入手したいといった利用者の傾向があるが、現状、ILLでは提供できない。そのため、加盟館が分担し、雑誌単位（紙や電子ジャーナルは問わない。）で共同保存するという方策からさらに歩を進め、DDSの提供者者と連携し、すべての加盟館が利用できる安価なDDSシステムを東海地区で構築できればと考える。
- ・除籍・廃棄はそれぞれの図書館の事情が関わってくるので、統一した基準や取組みが難しいと思います。ですが、廃棄ものの有効活用や、廃棄により生じるILL依頼先の減少等の解決策をネットワークで考えられたらいいと思います。

2. 除籍（廃棄）についての考えを、自由に（自由記述）

- ・一度図書移転時に15年以前の雑誌を廃棄してよろしいか先生方にお聞きしたところ「必要な時に必要な資料がいつでも見れるのが図書室ではないのか」とのご意見があり、廃棄をやめました。（EJで閲覧可のもの以外）その後確かに文献を依頼された時「やはり廃棄しなくてよかった」とホットしました。スペースが許される限りお預かりした資料も保管するようにしています。
- ・図書や雑誌は病院の資産という考えから、廃棄には抵抗があるが、魅力的な書架にするためには仕方がないように思う。
- ・不明書籍について、何年以上経過したら除籍していいのか、他の機関ではどのようにされているのか教えていただけたら幸いです。
- ・資料保存の点からは除籍せず永久保存したいが、保存スペースの問題から妥協して除籍せざるをえない。利用頻度を確認しながら除籍していこうと考えています。
- ・資料を保存することは図書館の使命、理想であり、明らかな除籍理由（破損、重複などの適切な管理）以外、安易に除籍すべきではない。除籍理由の内容の陳腐化の判断も難しいところではある。ただし、限りあるスペースを考えると、図書資料の価値という視点だけでなく、利用者のニーズや資料のフレッシュさという視点を優先せざるをえないというのが実情である。
- ・作業量も、精神的な面でも、資料の受入より除籍の方が大変であると思う。紛失・不明を除き、除籍しなくて済むならそれに越したことはないが、スペースの確保のためには除籍せざるを得ない。除籍するたび、本当に捨てていいかためらいつつ除籍しているが、せめてそのためらいは無くさないようにしたいと思う。
- ・電子資料の普及により、除籍（廃棄）が増える可能性があるが、電子資料の永続的な利用の可否、紙資料の完全な代替となり得るのかどうか、など検討すべきことは多い。
- ・汚損や破損が著しい資料は除籍しても仕方がないことだと考えますが、単純に資料が古くなったからといって除籍するのは資料保存の役割を果たせないことになるのではないかと考えています。また、資料を電子化するのも結構なことだとは思いますが、紙の資料も同時に保存収集していくことが理想的だと考えます。
- ・一度に大量の除籍を行うことは、費用・労力といった観点から見ても大変であるため、数年に一度くらいの頻度で実施できればよいと思う。（補足：大掛かりな除籍の場合は、学校法人全体の資産に影響が及ぶことから、図書館側の意向だけでは除籍できないといった状況もあるため、法人側とも調整の上、除籍総額の上限を定めるなどして計画的に実施する必要がある。）
- ・今年度、除籍基準を作成予定であるが、基準を作成するに当たって、分野及び利用者層を考慮する必要があると考えている。（一律に出版年で区切ることはできない、利用価値の有無が判断しづらい等）
- ・担当分野の教員との連携が重要であると考えている。